

ヤマハ株式会社
2013年3月期
第1四半期決算説明会

2012年8月1日



2013/3期 1Q業績概要



➤ 対前年同期、対前回予想共に増収増益

(億円)

	12/3 1Q 実績	13/3 1Q 実績	前年同期比	前回予想 (12/5/1発表)	前回予想比
売上高	879	900	+2.4%	890	+1.2%
営業利益 (営業利益率)	31 (3.5%)	43 (4.7%)	+37.0%	20 (2.2%)	+112.6%
経常利益	28	38	+37.2%	15	+152.8%
当期利益	5	26	+421.9%	15	+75.4%

為替レート

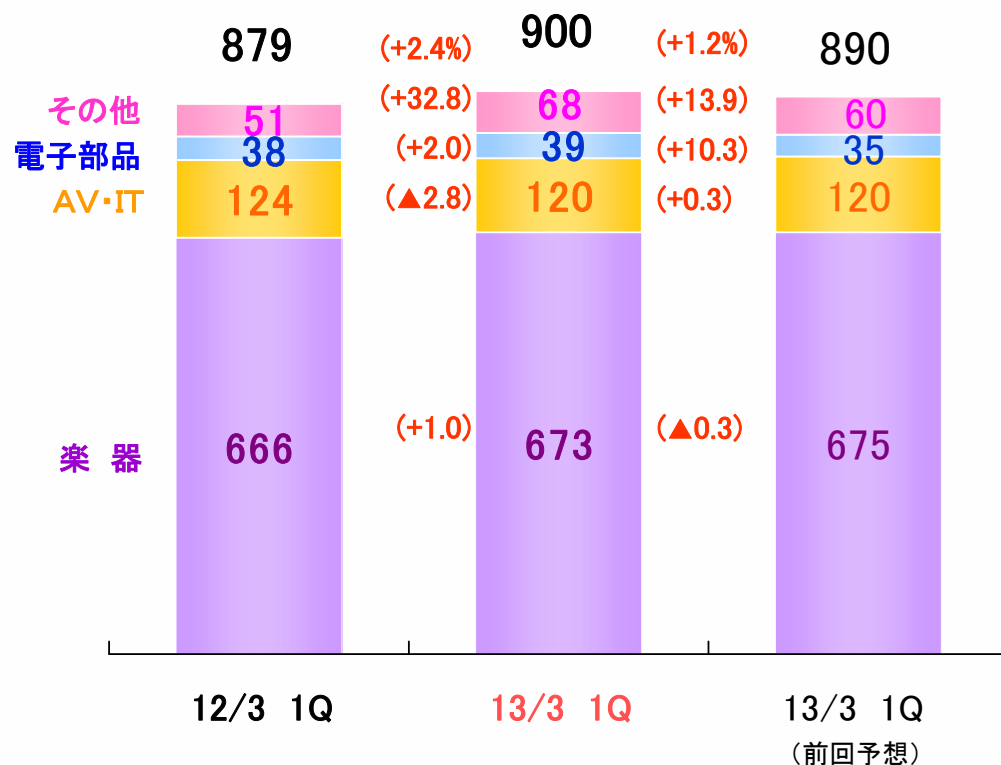
(円)

売上高	US\$	82	80	75
	EUR	117	103	105
利益	US\$	82	81	75
	EUR	114	106	105

2013/3期 1Q事業別業績

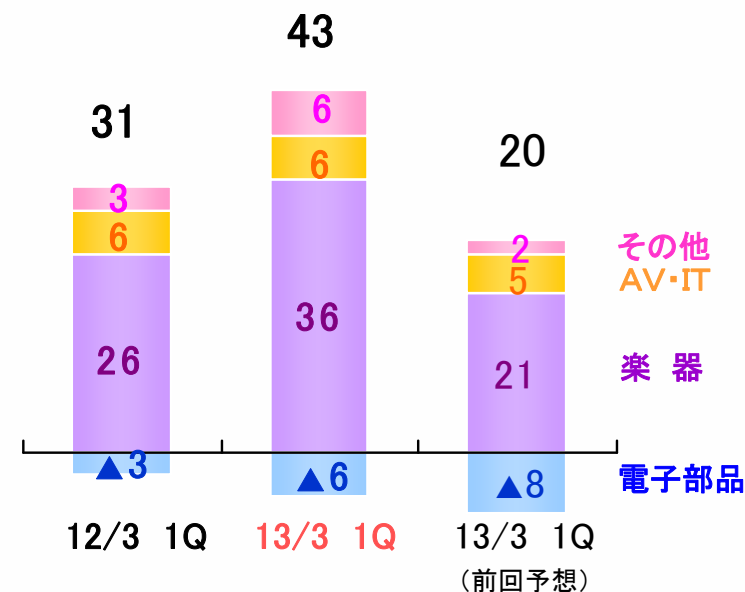


売上高



営業利益

(億円)



()内は前年同期比
または
前回予想比

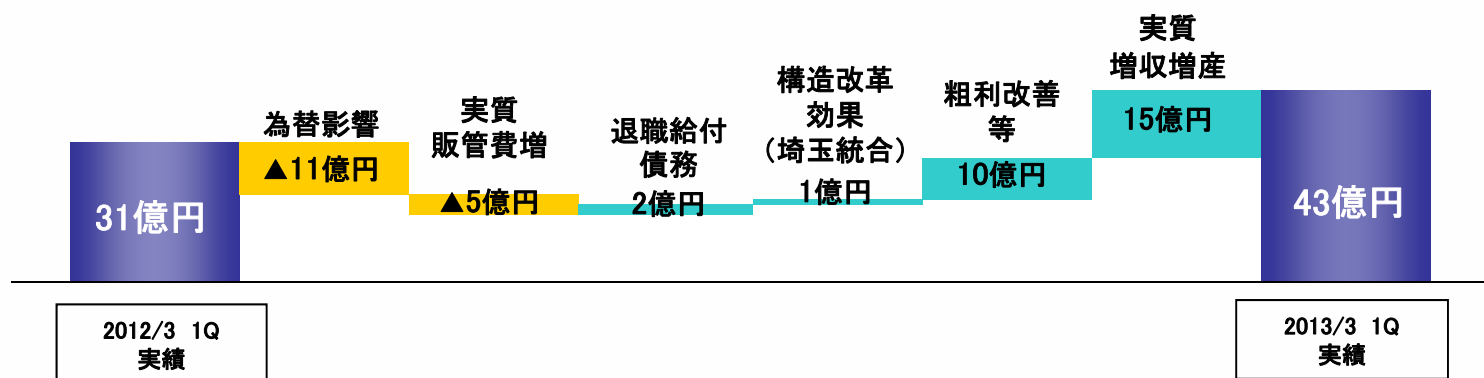
	為替影響額
前年同期比較	▲31億円 (楽器 ▲25億円、AV・IT ▲6億円)
前回予想比較	+9億円 (楽器 +6億円、AV・IT +2億円、 電子部品 +1億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲11億円 (楽器 ▲9億円、AV・IT ▲1億円)
前回予想比較	+6億円 (楽器 +5億円、AV・IT +1億円)

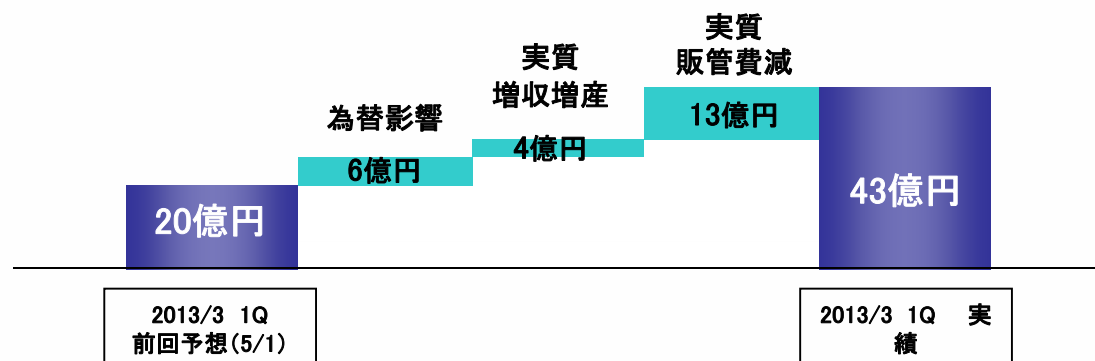
2013/3期 1Q営業利益増減要因



前年同期との比較



前回予想との比較



2013/3期 2～4Q及び通期業績見通し



2～4Qの業績見通し

- 欧州経済の減速見通し
- 対ユーロでの円高、為替水準を見直し
- 中国経済は成長率鈍化するも、楽器販売は着実な成長を見込む
- 国内市場は厳しい状況が継続

通期の業績見込み

- 第1四半期業績及び今後の事業動向、為替動向を考慮し、売上高を3,750億円に修正
営業利益145億円、経常利益130億円は据え置き
事業構造改革関連費用17億円を織り込み、当期純利益を75億円に修正

2013/3期 通期業績予想



- 通期業績は、売上高、当期利益を下方修正
- 2～4QのUS\$、EUR為替レートは各々77円、100円を前提

(億円)

	12/3 実績	13/3 予想	前期比	前回予想 (12/5/1)	前回予想比
売上高	3,566	3,750	+5.2%	3,780	▲0.8%
営業利益 (営業利益率)	81 (2.3%)	145 (3.9%)	+78.8%	145 (3.8%)	—
経常利益 (経常利益率)	73 (2.0%)	130 (3.5%)	+79.2%	130 (3.4%)	—
当期利益 (当期利益率)	▲294 (—)	75 (2.0%)	—	90 (2.4%)	▲16.7%

為替レート

(円)

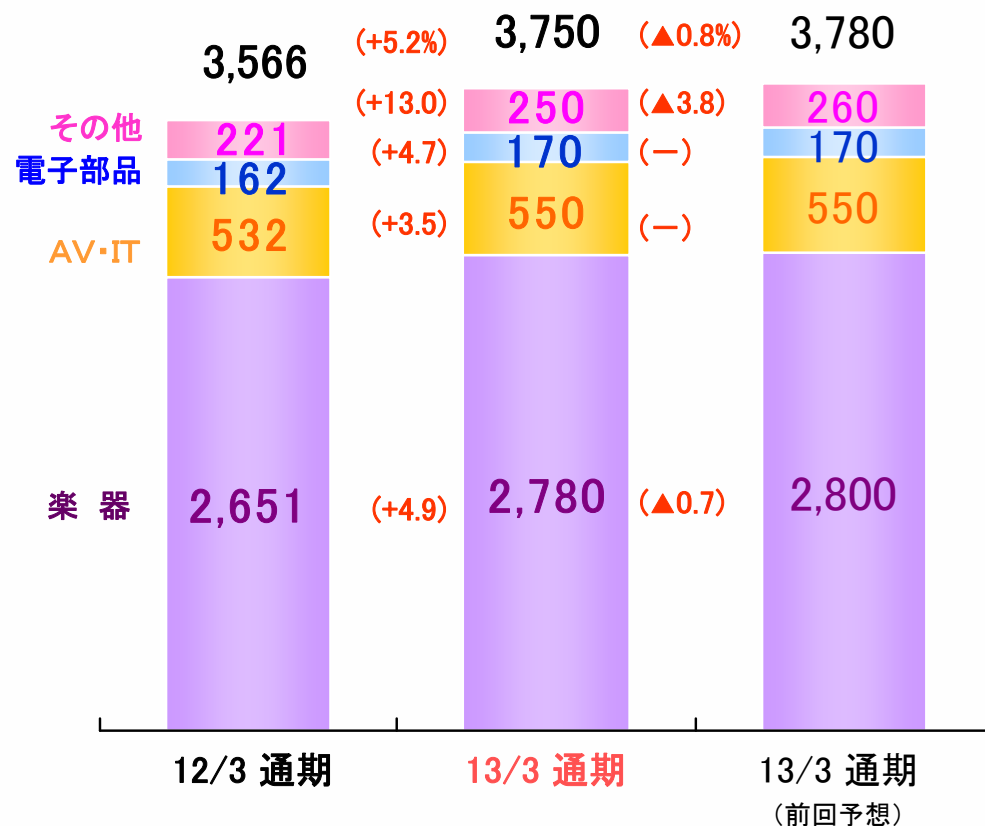
(2～4Q)

売上高	US\$	79	78	77	75
	EUR	109	101	100	105
利益	US\$	79	78	77	75
	EUR	112	101	100	105

2013/3期 通期事業別業績予想

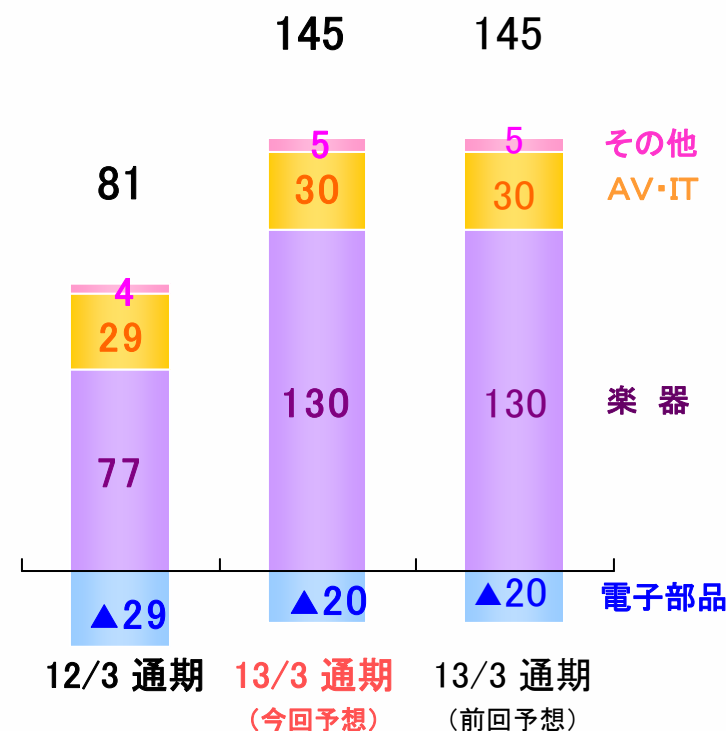


売上高



営業利益

(億円)



()内は前期比
または
前回予想比

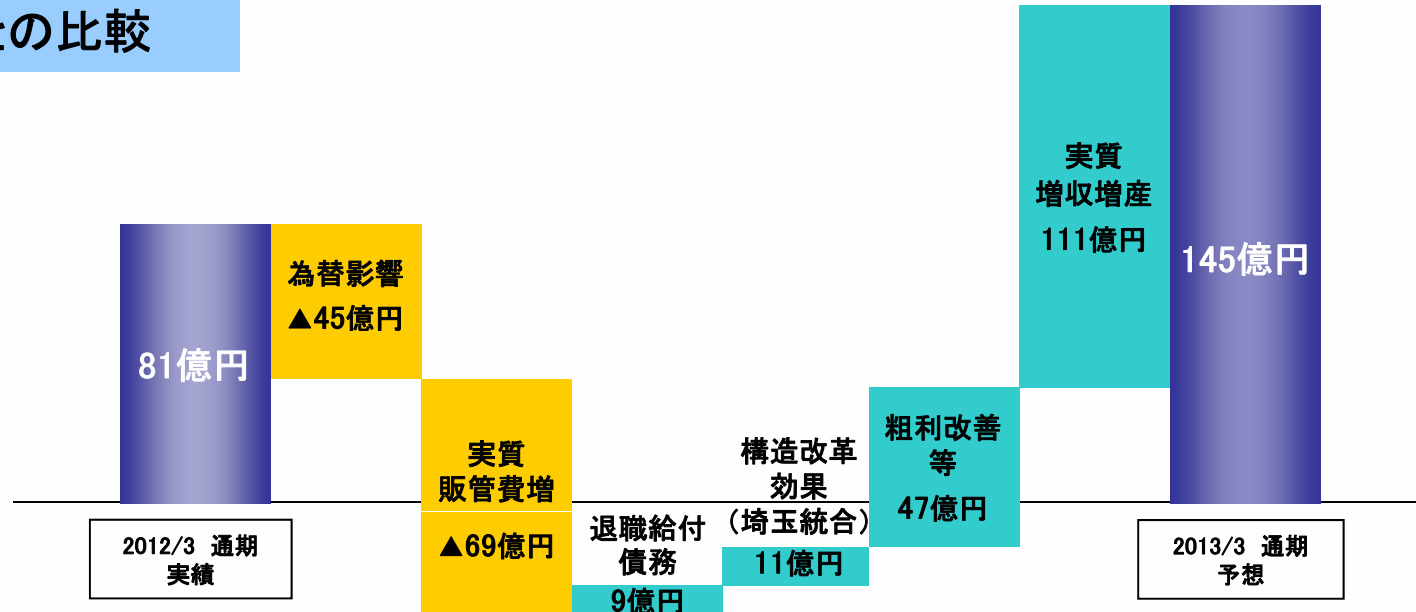
	為替影響額
前期比較	▲70億円 (楽器 ▲54億円、AV・IT ▲15億円)
前回予想比較	+3億円 (楽器 +1億円、電子部品 +1億円)

	為替影響額
前期比較	▲45億円 (楽器 ▲34億円、AV・IT ▲11億円)
前回予想比較	+2億円 (楽器 +2億円、AV・IT ▲1億円、電子部品 +1億円)

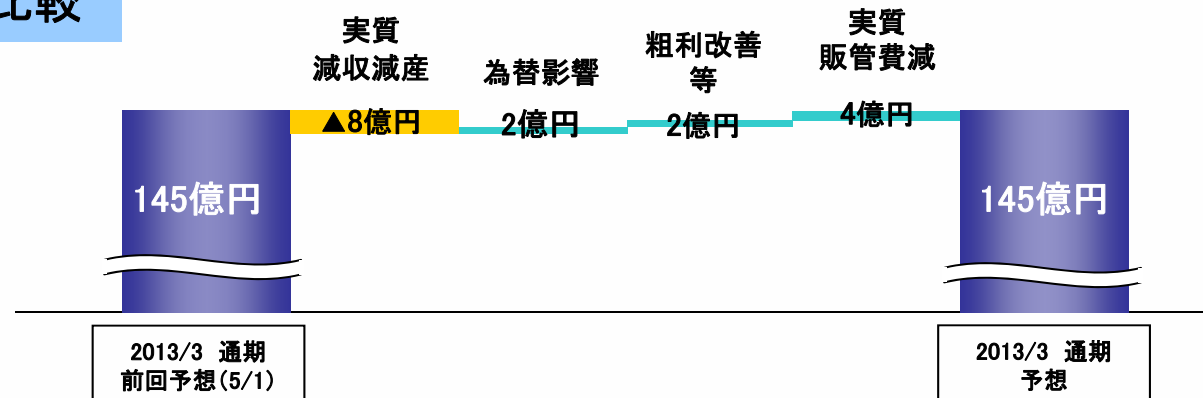
2013/3期 通期営業利益増減要因



前期との比較



前回予想との比較

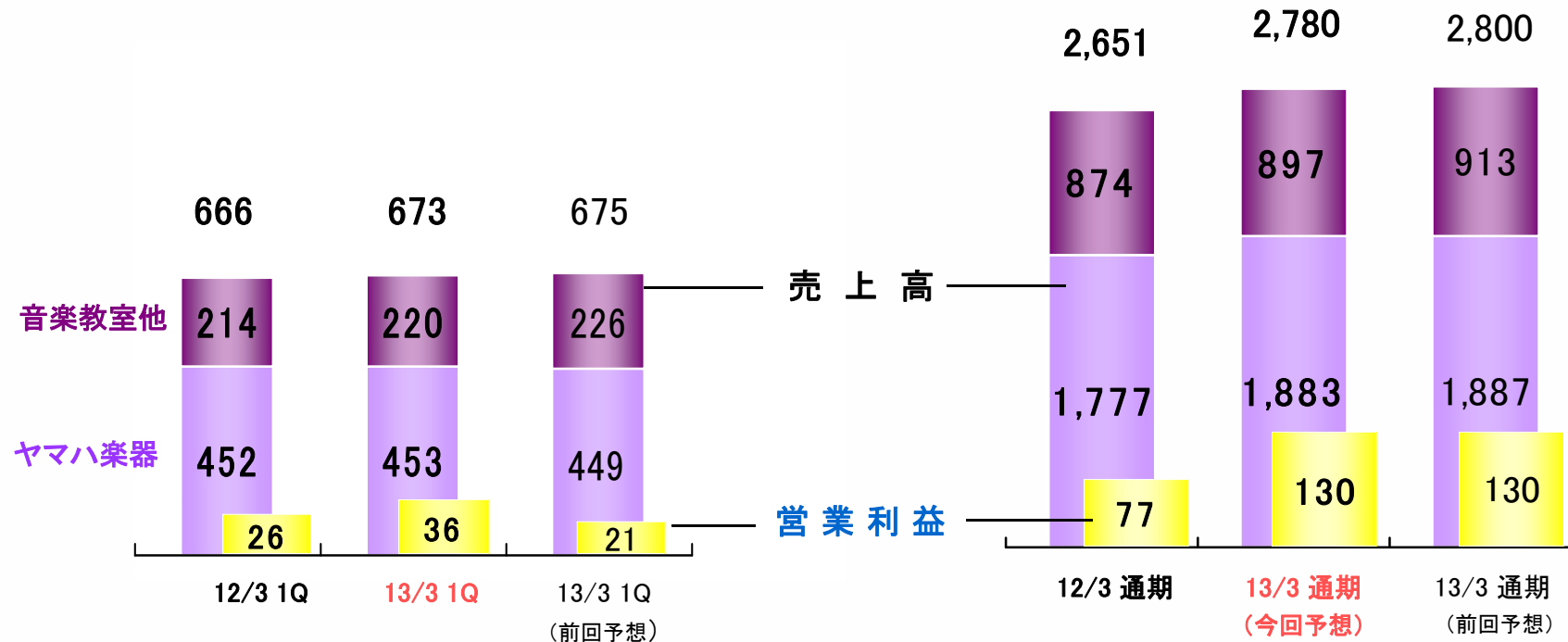


楽器事業

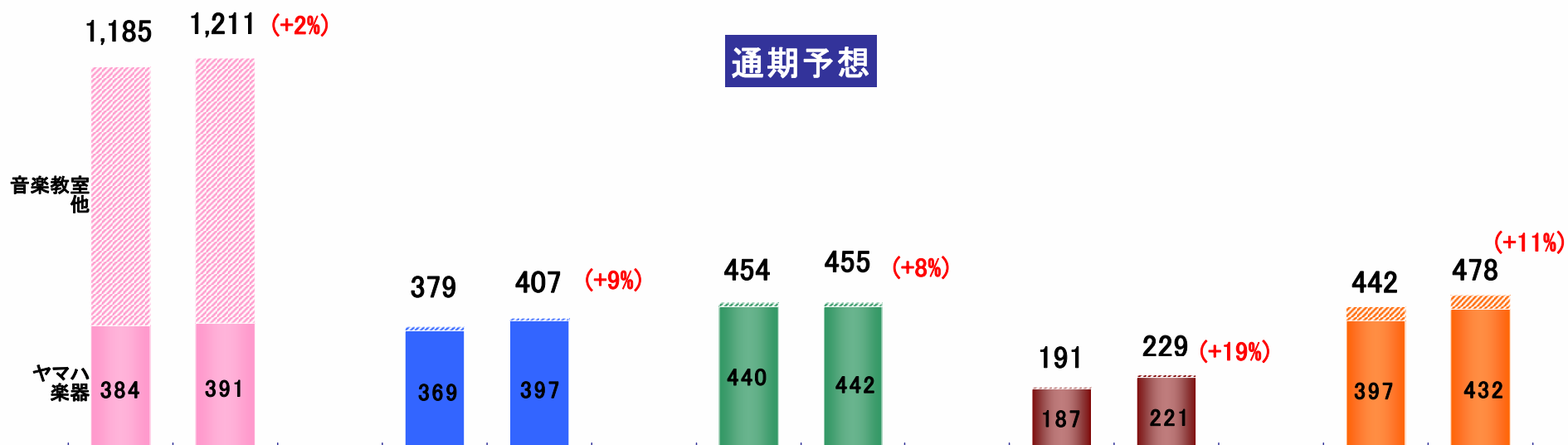
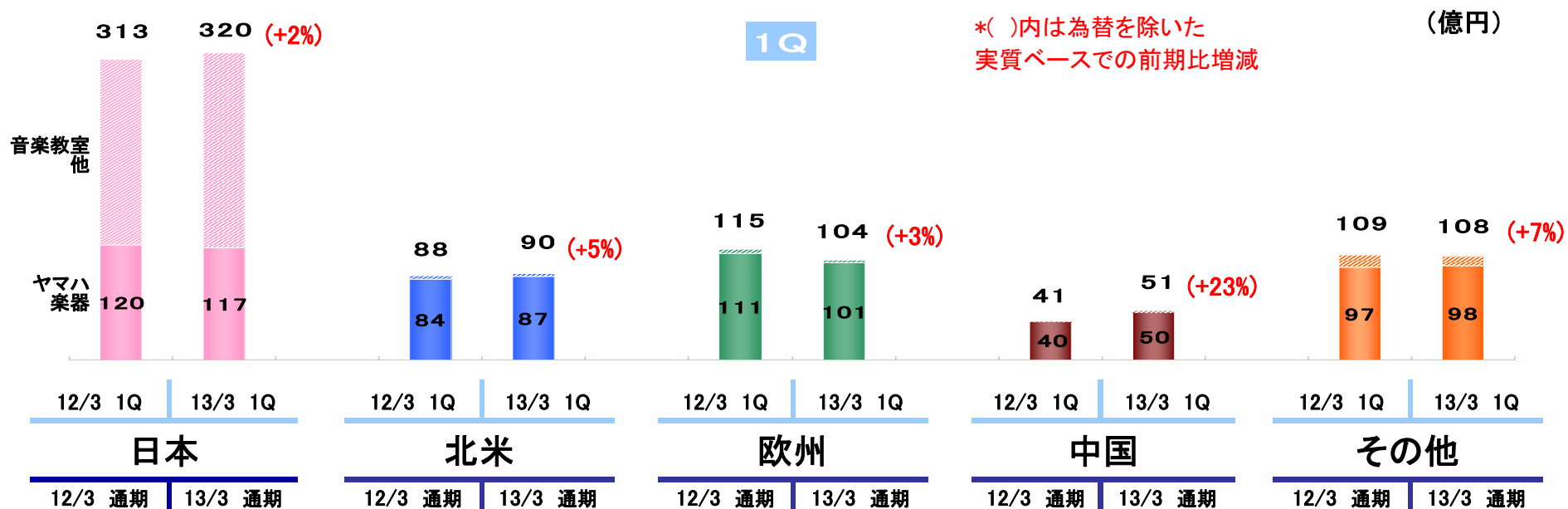


1Qの状況	通期予想と重点施策
<ul style="list-style-type: none"> ・対前年同期増収増益、対前回予想増益 ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期4.8%(32億円)の増収。対前回予想では実質1.2%(8億円)の減収 ・海外市場が概ね堅調に推移 ・商品別では電子楽器、弦打楽器が実質二桁成長 ・営業利益は、対前年同期、前回予想ともに電子楽器の好調な推移を主要因として増益 	<ul style="list-style-type: none"> ・対前回予想で減収を見込む ・ピアノ、電子楽器、PA機器等の新商品の円滑な導入 ・年末商戦に向けての着実な仕込み ・在庫削減取り組み ・国内営業、国内生産構造改革施策の推進 ・中国、新興国市場の着実な販売網整備

(億円)



楽器事業(地域別の販売状況)



楽器事業(地域別の販売状況)

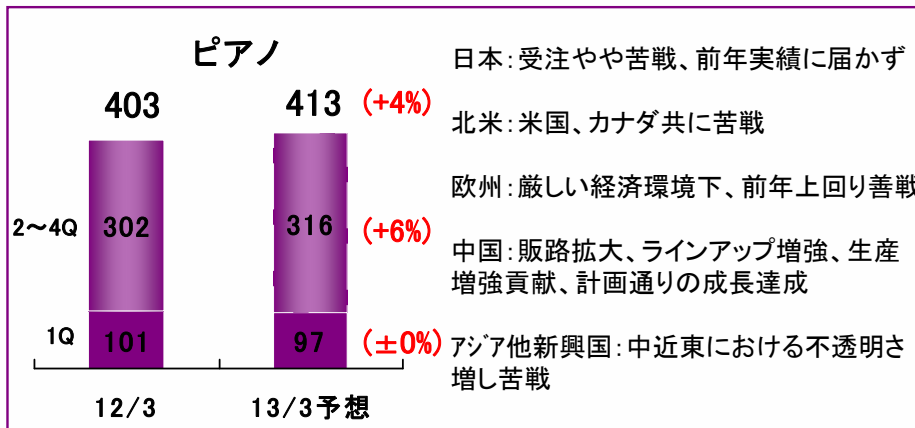


楽器地域別状況	
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・エレクトーン、ポータブルキーボードの販売が期待に届かず、電子ピアノも前年同期並みに留まる ・特にエレクトーンは教室生徒募集不振が販売に影響 ・国産アップライトピアノは堅調に推移したが、グランドピアノ受注が振るわず ・管楽器は上位機種は前年並み推移も、吹奏楽部活動不活発校の部員数減少等により普及価格帯の販売が伸びず苦戦 ・ギターはギターアンプのTHRを含め販売好調維持、ドラムは前年並み
北米	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノは、アップライトピアノの苦戦等で前年実績に届かず ・電子ピアノ、ポータブルキーボードは供給正常化し販売堅調 ・管楽器はレンタル用出荷前倒し、大学向け特需等で好調に推移し対前年同期二桁成長 ・ギターはギターアンプTHRが好調、ドラムは生ドラムが大手ディーラーにて取り扱いが始まり堅調に推移 電子ドラムも競合は厳しいが前年同期を上回る ・設備用音響機器は前年若干未達も、楽器店ルートの音響機器が好調で全体では前年を上回る。
欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州の経済危機の影響で小売の動きが低調ながら1Qは欧州の楽器ショーでの確定受注が大きく貢献し、ピアノ、電子ピアノ、ポータブルキーボード、楽器店ルートの音響機器が好調で前年を上回る ・管楽器は前年並みを維持、弦打楽器は全体で前年を上回る ・地域別では、南欧、北欧が厳しい中、ドイツ中心の成熟市場は順調、イギリスも大きく対前年で伸ばし好調 ただし、小売の動きが鈍く、流通在庫増の傾向で、夏から秋にかけての需要期の動きが今後極めて重要となる
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・高額品市場の停滞観測も聞かれる中、販売網の拡大によって売上は計画通り推移し、1Qは前年比120%超で成長 ・地方都市で販売力のあるディーラー数が増加したこと、ギターや管楽器で専門店のディーラー数が増え 高付加価値商品販売の基礎が固まってきたことが販売拡大の要因
その他の地域	<ul style="list-style-type: none"> ・電子楽器が好調で全体を牽引 ・主要新興国ではロシア、インドが売上を順調に伸ばす ・東南アジアではインドネシア、タイが二桁成長を維持。中南米でもアルゼンチンは輸入規制で苦戦するも、 コロンビア、ベネズエラ等好調で、ブラジル、メキシコも二桁の伸び ・イラン経済制裁、シリア問題影響を受ける中東、北アフリカ、楽器店再編中のオセアニアは苦戦

楽器事業(商品群別の販売状況)

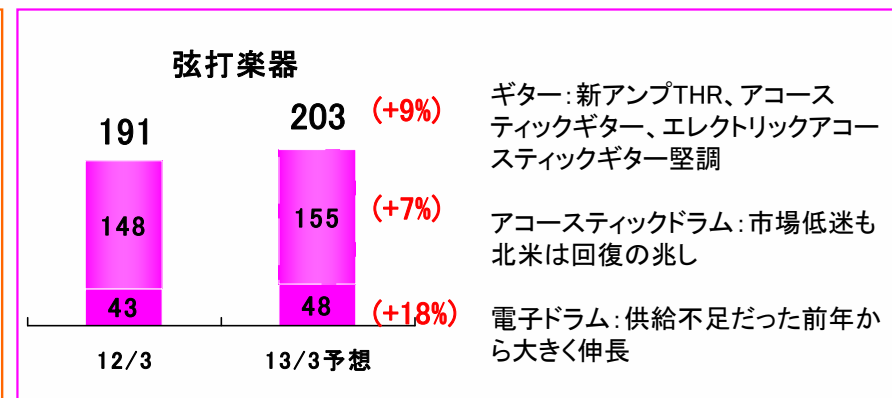
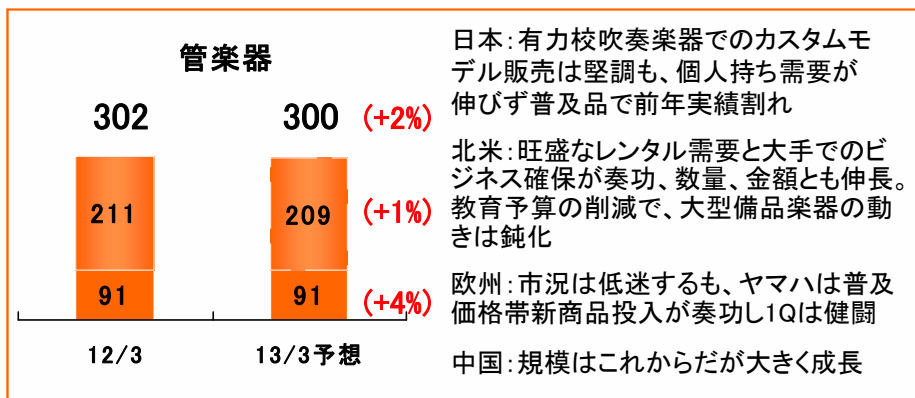
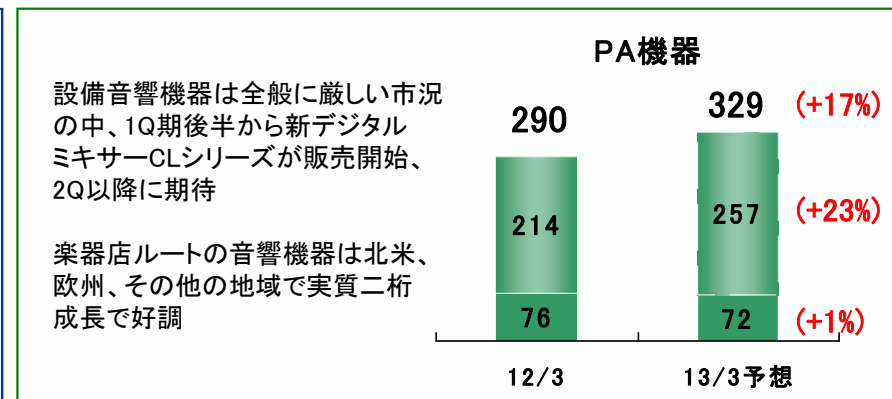
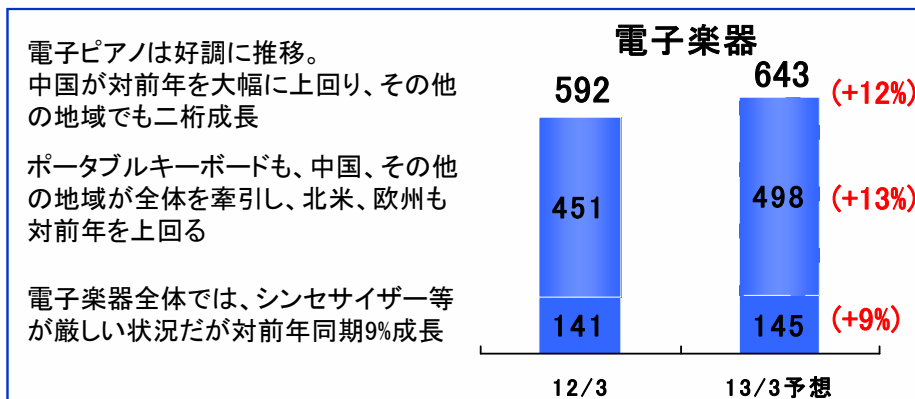


(億円)



*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

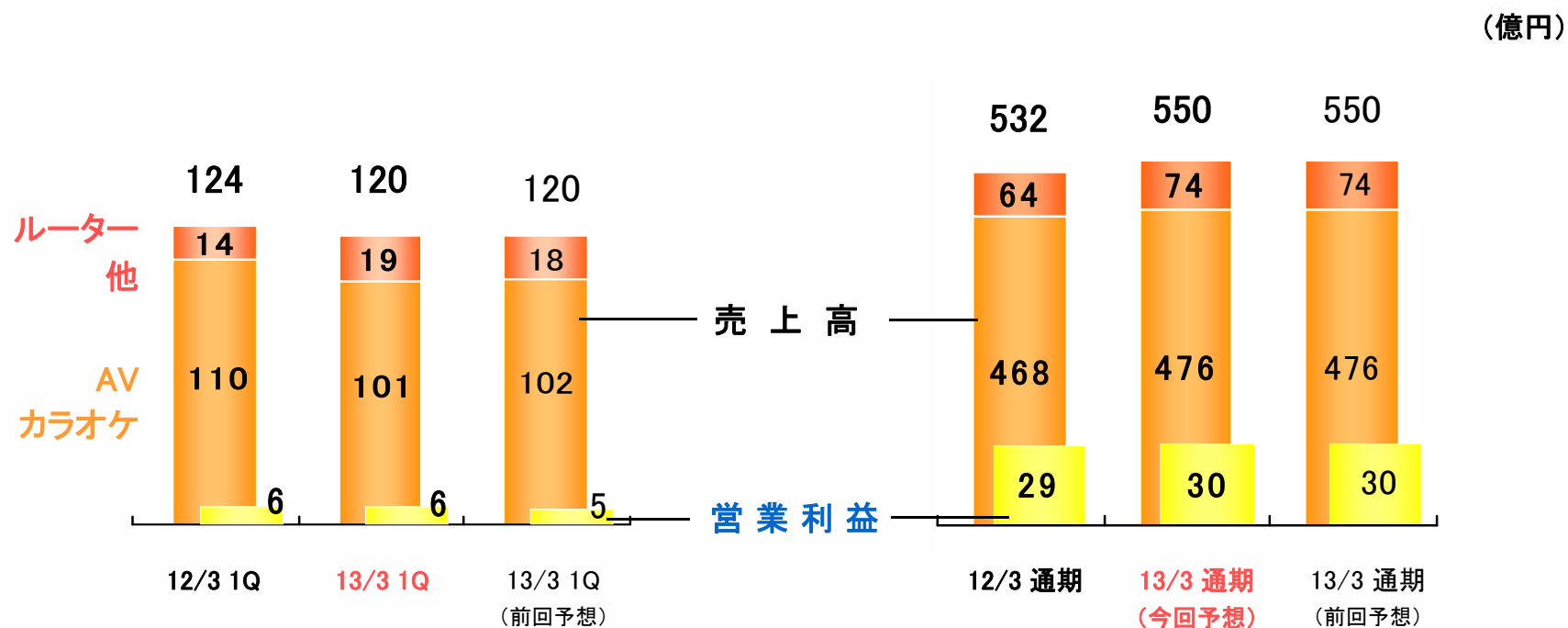
※エレクトーンを電子楽器に含めて表示しております。



AV・IT事業



1Qの状況	通期予想と重点施策
<ul style="list-style-type: none"> ・対前年同期減収、対前回予想では計画通り ・為替影響を除いた実質売上高は、対前年同期1.7%(2億円)の増収 ・通信カラオケ機器が苦戦もAV機器、ルーターは実質増収 	<ul style="list-style-type: none"> ・通期は前回予想通り ・新商品導入で堅調に推移した欧州、米国市場の維持 ・サウンドバー商品の欧米市場の販売拡大 ・量販店との需要期販売の仕込み

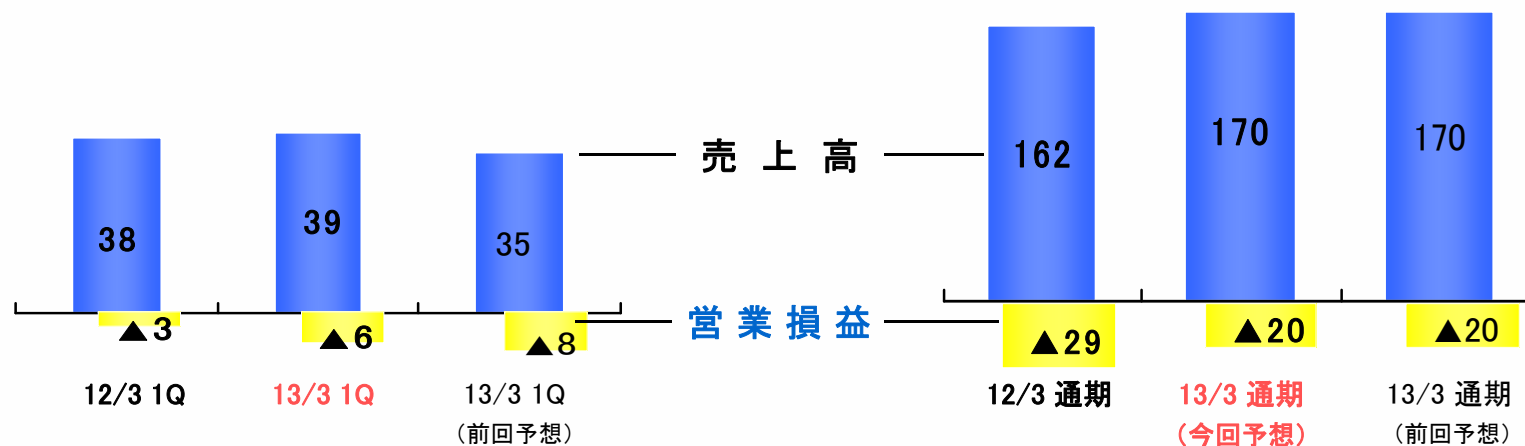


電子部品事業



1Qの状況	通期予想と重点施策
<ul style="list-style-type: none"> ・対前年同期では減益、対前回予想では損益改善 ・携帯音源の継続減収も、アミューズメント画像、音源用及びコーデック等対前年同期増収 ・営業利益は、売上総利益の減少等で対前年同期減益 対前回予想では売上総利益増等で損益改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・通期予想は前回予想通り ・拡大するスマートフォン市場への積極的アプローチ ・アミューズメント、地磁気センサー等の商品開発スピードアップ ・半導体事業構造改革の推進

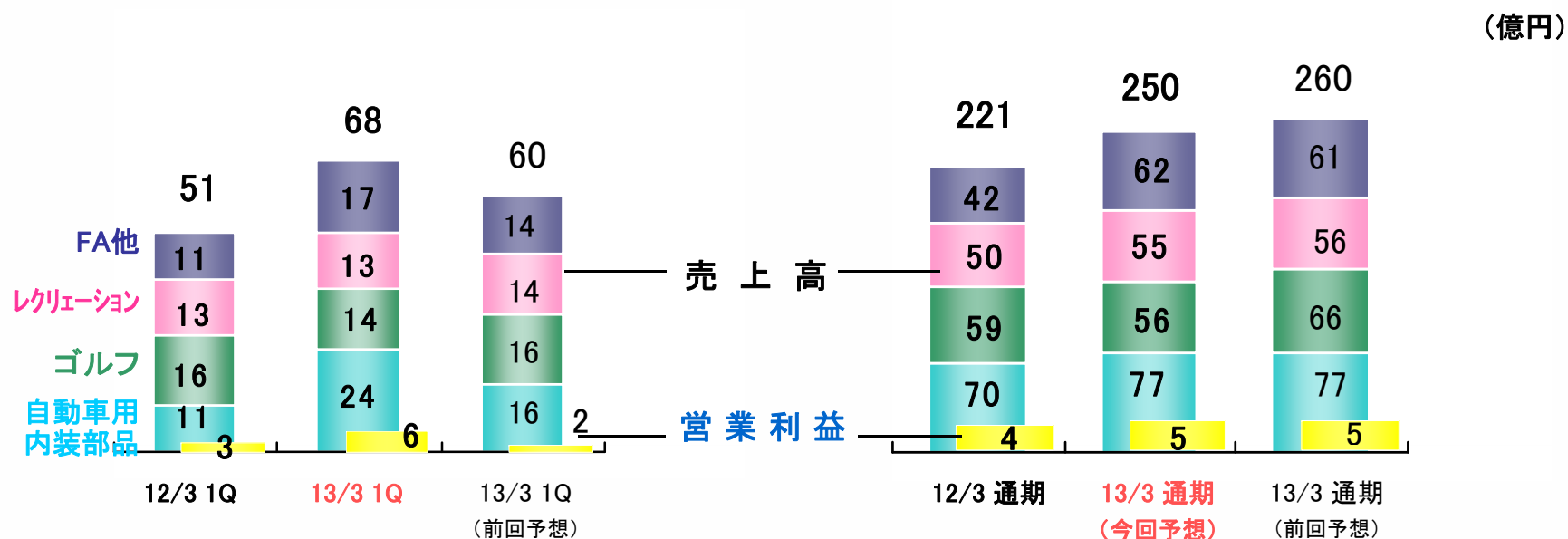
(億円)



その他の事業



1Qの状況	通期予想と重点施策
<ul style="list-style-type: none"> ・対前年同期、対前回予想共に増収増益 ・自動車用内装部品が自動車メーカー生産回復等で増収 ・ゴルフは国内市場の競争激化、海外市場振るわず減収 ・営業利益は自動車用内装部品、FA等により対前年同期増益 	<ul style="list-style-type: none"> ・対前回予想では減収 ・自動車用内装部品は自動車メーカー生産回復、新車導入に対する確実な供給 ・レクリエーションは、2Qの需要期の集客に注力とオフシーズン対策の実施 ・ゴルフ新商品の投入による巻き返し

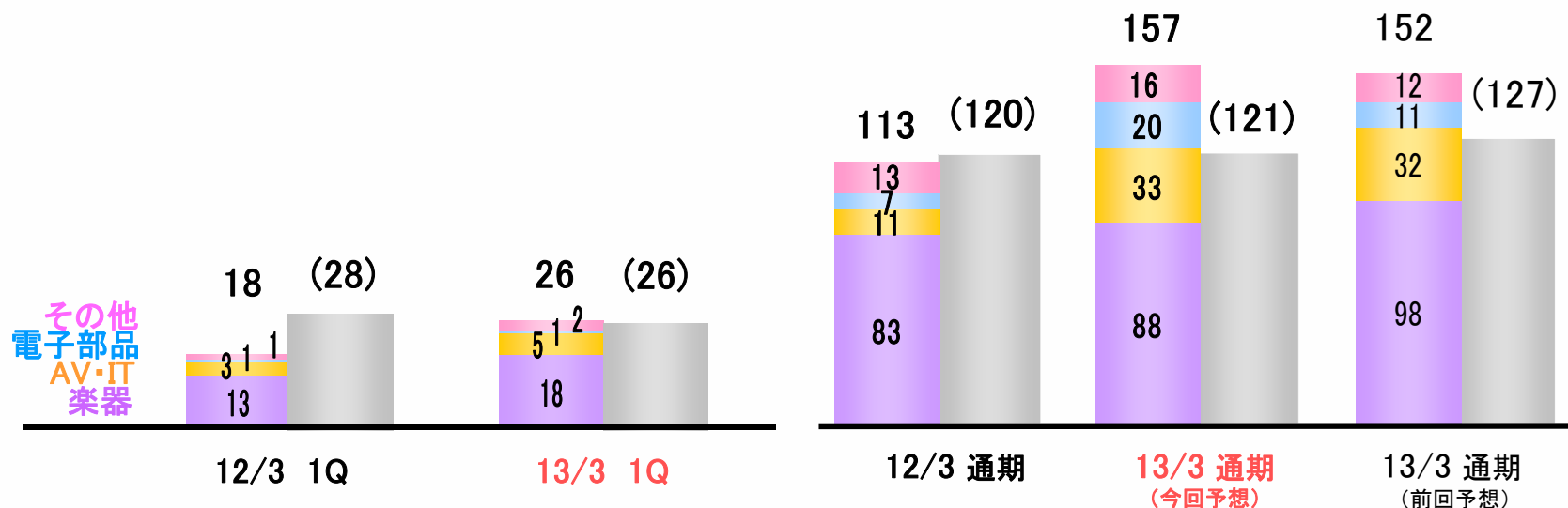


設備投資額・減価償却費/研究開発費

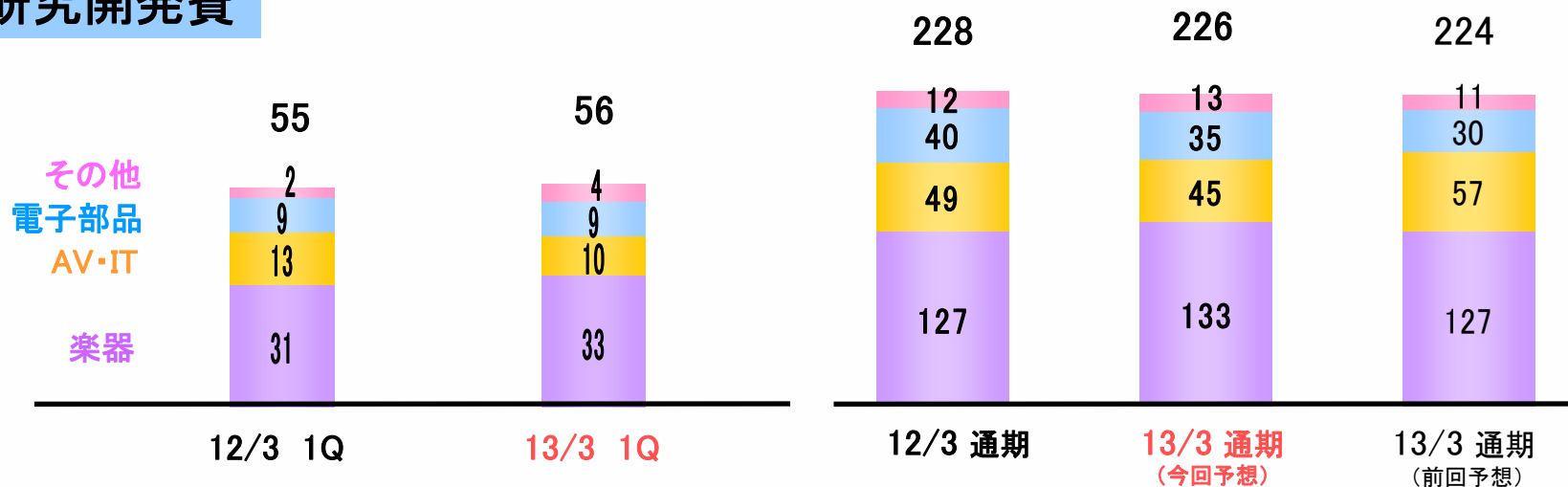


設備投資額(減価償却費)

(億円)



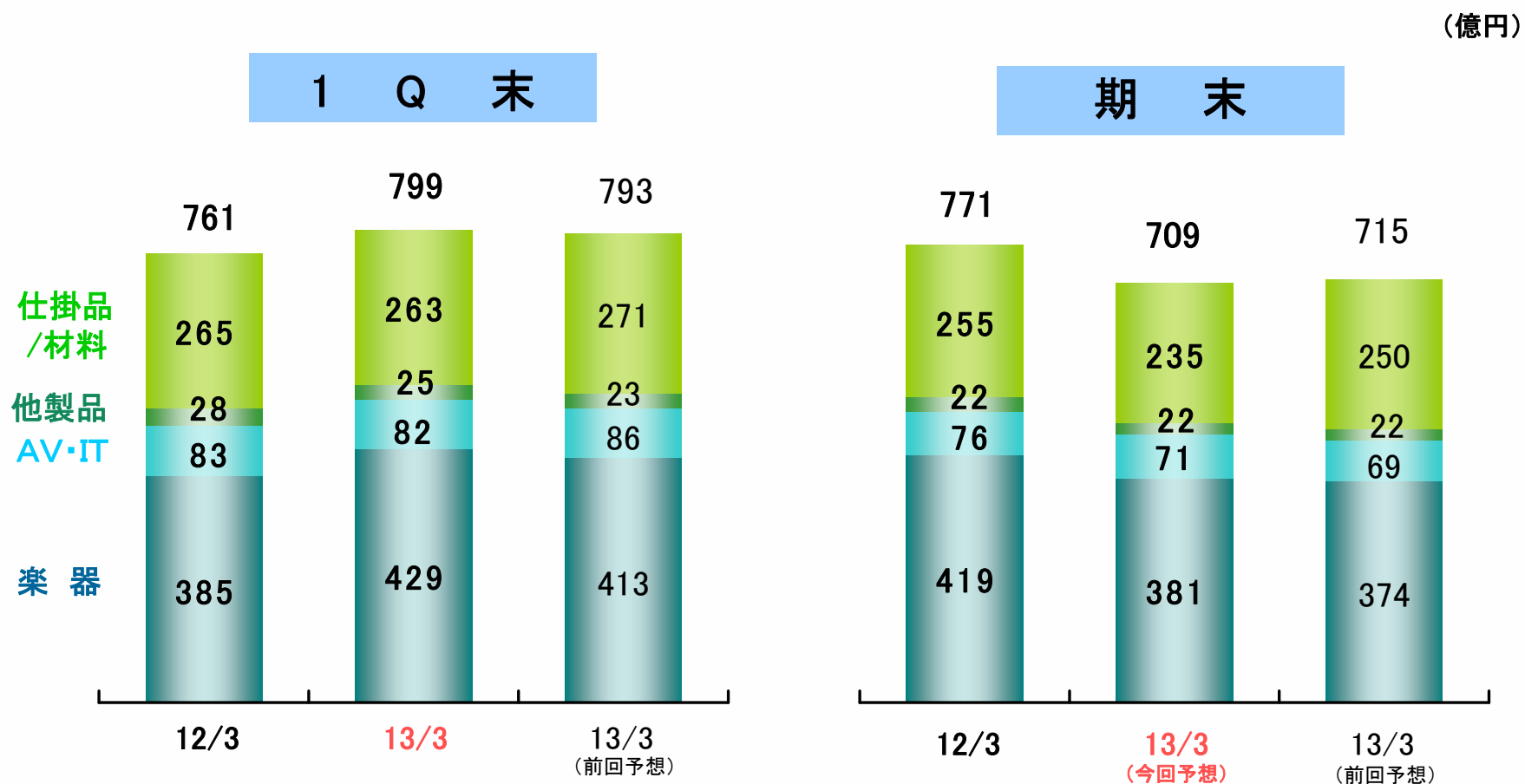
研究開発費



棚卸資産



➤1Q末総在庫は対前年同期38億円の増加
 (為替影響▲43億円を除けば実質81億円の増加)



貸借対照表



(億円)

	1Q末			期末予想		
	11/6末	12/6末	増減	12/3末	13/3末	増減
現預金	526	482	▲44	566	530	▲36
売上債権	431	449	18	445	435	▲10
棚卸資産	761	799	38	771	709	▲62
他流動資産	157	106	▲51	108	124	16
固定資産	1,957	1,605	▲351	1,776	1,644	▲132
資産計	3,831	3,441	▲390	3,666	3,441	▲225
仕入債務	232	230	▲2	223	209	▲14
借入金	113	128	16	113	67	▲46
リゾート預託金	158	154	▲4	155	154	▲1
他負債	893	1,002	109	1,107	1,049	▲58
純資産計	2,435	1,927	▲508	2,068	1,962	▲106
負債純資産計	3,831	3,441	▲390	3,666	3,441	▲225

※現預金残高には譲渡性預金を含む

国内事業構造改革について

国内事業構造改革プロジェクト



- 目的 日本国内の事業構造を抜本的に見直し、
1. 単体の損益を改善(黒字化)すること
 2. ヤマハグループ全体の収益力を強化すること

1. 国内営業構造改革

市場が成熟する中、売上規模に応じた事業構造へ改編

2. 国内楽器生産構造改革

国内生産の競争力強化のため、適正な事業構造へ改編

3. 半導体事業構造改革

受注変化に柔軟に対応し、収益を確保できる事業構造へ改編

4. スタッフ業務改革

経営規模に応じたコンパクトかつ効率的な組織へ再編し、戦略機能を集約

国内営業構造改革



目的 国内の楽器・音響機器市場が成熟し大きな成長が見込めない中、営業体制を改編し、効率的な運営を目指すとともに、営業力の更なる強化を図る

営業拠点の集約

北海道(札幌)、仙台、名古屋、九州(福岡)の4つの営業事業所を閉鎖し、営業拠点を東京、大阪に集約する (2013年4月)

新卸販売会社の設立

楽器・音響機器の国内営業部門を分社化し、ヤマハミュージックトレーディング株式会社、ヤマハミュージックリース株式会社、ヤマハエレクトロニクス・マーケティング株式会社と統合して、ヤマハミュージックジャパン株式会社(仮称、以下YMJ)とする (2013年4月)

小売販売子会社の統合

小売販売子会社8社を統合して、株式会社ヤマハミュージック(仮称)とし、YMJの傘下に置く (2013年4月)

ヤマハサウンドシステム株式会社をYMJの傘下に置く(2013年4月)

国内楽器生産構造改革



目的 従来より取り組んでいる部品生産や普及品組立工程の海外移管を推進する一方、国内では更なる製造原価の低減と付加価値の高い中高級品の生産における当社独自の製造技術や、技能の維持・強化を図る

生産部門の分社化及び統合

ピアノ生産部門(掛川工場)を分社化、山梨工芸株式会社と統合し、
ヤマハピアノ製造株式会社(仮称)とする (2014年4月)

管楽器生産部門(豊岡工場)を分社化、ヤマハミュージッククラフト(株)と統合し、
ヤマハ管弦打楽器製造株式会社(仮称)とする (2014年4月)

デジタル楽器・音響機器生産部門(豊岡工場)を分社化し、
ヤマハデジタルプロダクツ株式会社(仮称)とする (2014年4月)

半導体事業構造改革



目的 競争の激化に伴い、市況の変化に柔軟に対応して収益を確保できる事業構造への変革を行う

事業の選択と集中

競争力のある地磁気センサーやアミューズメント向け音源・画像、車載向け商品に集中して開発資源を投入する

生産体制の再構築（ファブライト化の推進）

ヤマハ鹿児島セミコンダクタ株式会社を高度な生産技術を要する地磁気センサーの生産工程を中心とした工場へ転換する。また、このための設備投資を今期実施する

現在、国内生産しているコスト競争力が低いデバイスは、順次、海外委託生産へ切り替える

スタッフ業務改革



目的 「小さな本社」を志向する中、スタッフ部門はグループ戦略立案とマネジメントの企画業務に集中し、その運用実務と事業支援業務は子会社及び外部アウトソース先に移管・委託を進め、業務の効率化と品質向上に取り組む

重複業務・過剰業務の廃止

業務プロセスを見える化し、無駄な作業の廃止・削減を徹底する

シェアードサービスの推進

固有性を要し、かつ内部で保持すべき専門業務や、機能集中・シェアードサービスによって全体効率の向上が図れる業務は、ヤマハビジネスサポート株式会社に移管する

アウトソースの積極的活用

外部の専門家に委ねられる業務や外部の標準化されたインフラやリソースを活用して効率化が図れる業務は、積極的にアウトソースを進める

基本方針

- 定年退職等による自然減耗の要員補充を必要最小限に止め、固定費の削減を図る

新子会社の要員について

- 一部の要員については配置転換・職種変更を行い、各子会社における適切な人員体制を実現する
- 国内営業部門から新卸販売子会社に配属される要員は出向扱いとし、将来の要員補充については子会社採用とする
- 生産部門から新生産子会社に配属される要員は出向扱いとし、将来の要員補充については子会社採用とする

雇用調整について

- 下記の子会社については雇用調整を行う
 - ヤマハ鹿児島セミコンダクタ株式会社
 - 国内小売販売子会社

構造改革の費用と効果



構造改革費用（2013年3月期 特別損失）

国内営業構造改革 10億円

半導体事業構造改革 7億円

⇒ 合計17億円を特別損失として2013年3月期の業績見通しに織り込む

構造改革投資（2013年3月期）

ヤマハ鹿兒島セミコンダクタ株式会社の
センサー工程中心工場への転換など 12億円

構造改革の効果（2014年3月期）

人件費削減 17億円（自然減耗等を含む）

事業再編、業務改善による合理化 10億円

⇒ 合計27億円を構造改革の効果として2014年3月期に見込む

※国内楽器生産構造改革については、生産体制の改編が2014年4月になることから、上記効果には織り込んでいません

付属資料

2013/3期 1Q営業外損益、特別損益



	12/3 (1Q)実績	13/3 (1Q)実績	13/3 (1Q)前回予想
営業外損益			(億円)
金融収支	3	3	1
その他	▲6	▲8	▲6
計	▲3	▲5	▲5
特別損益			
固定資産処分損益	▲1	0	0
その他	▲1	▲1	0
計	▲2	▲1	0
法人税他			
法人税等	8	10	3
法人税等調整額	12	0	▲4
少数株主利益	1	1	1
計	21	11	0

2013/3期 通期営業外損益、特別損益



	12/3 実績	13/3 今回予想	13/3 前回予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	13	8	7
その他	▲21	▲23	▲22
計	▲8	▲15	▲15
特別損益			
固定資産処分損益	▲1	2	▲2
その他	▲2	▲22	▲3
計	▲3	▲20	▲5
法人税他			
法人税等	40	32	32
法人税等調整額	321	▲1	0
少数株主利益	3	4	3
計	364	35	35

構造改革費用 ▲17

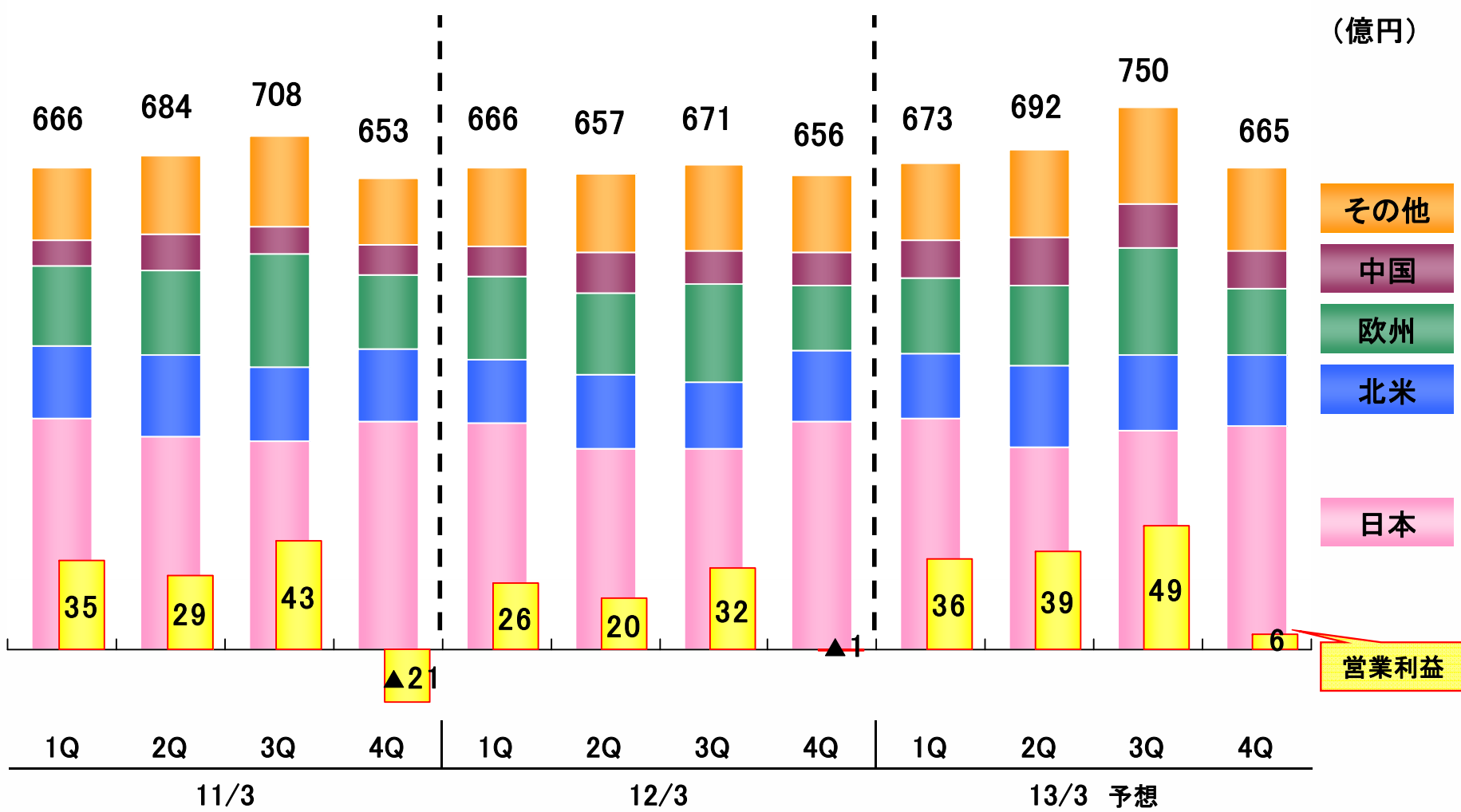
楽器四半期別売上高／営業利益



売上高 2,711億円
営業利益 86億円

売上高 2,651億円
営業利益 77億円

売上高 2,780億円
営業利益 130億円



AV・IT四半期別売上高／営業利益

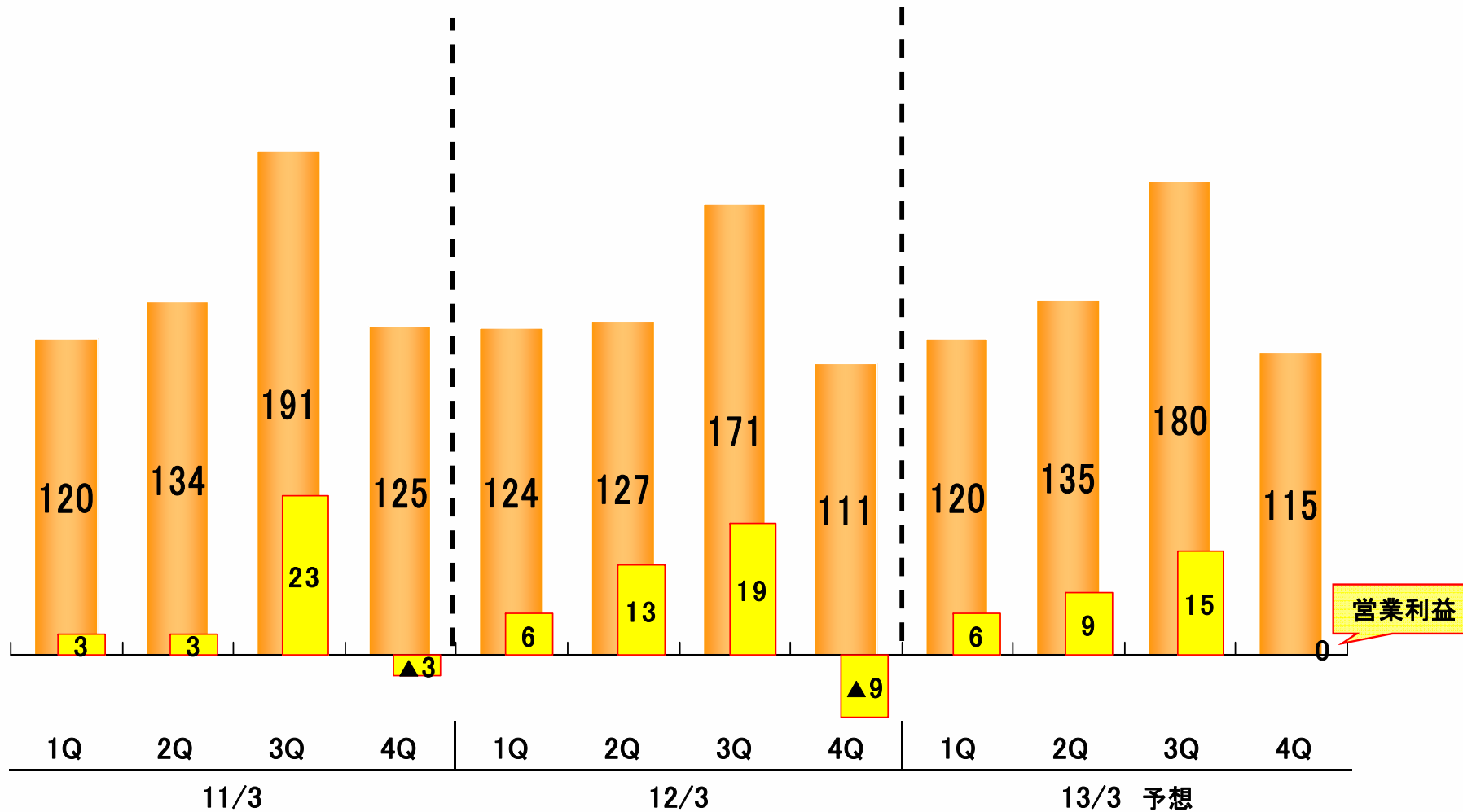


売上高 570億円
営業利益 25億円

売上高 532億円
営業利益 29億円

売上高 550億円
営業利益 30億円

(億円)



電子部品四半期別売上高／営業利益

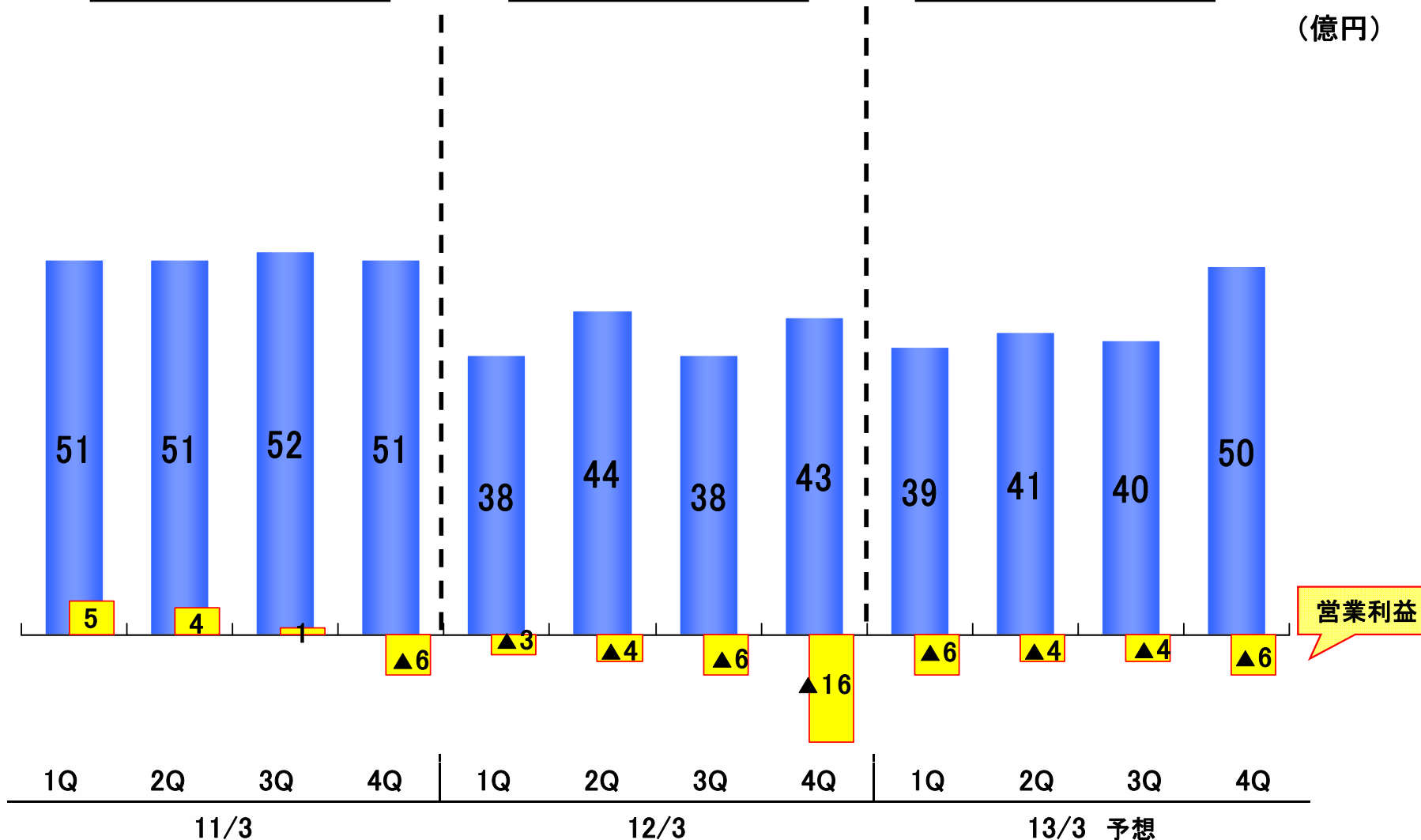


売上高 206億円
営業利益 5億円

売上高 162億円
営業利益 ▲29億円

売上高 170億円
営業利益 ▲20億円

(億円)



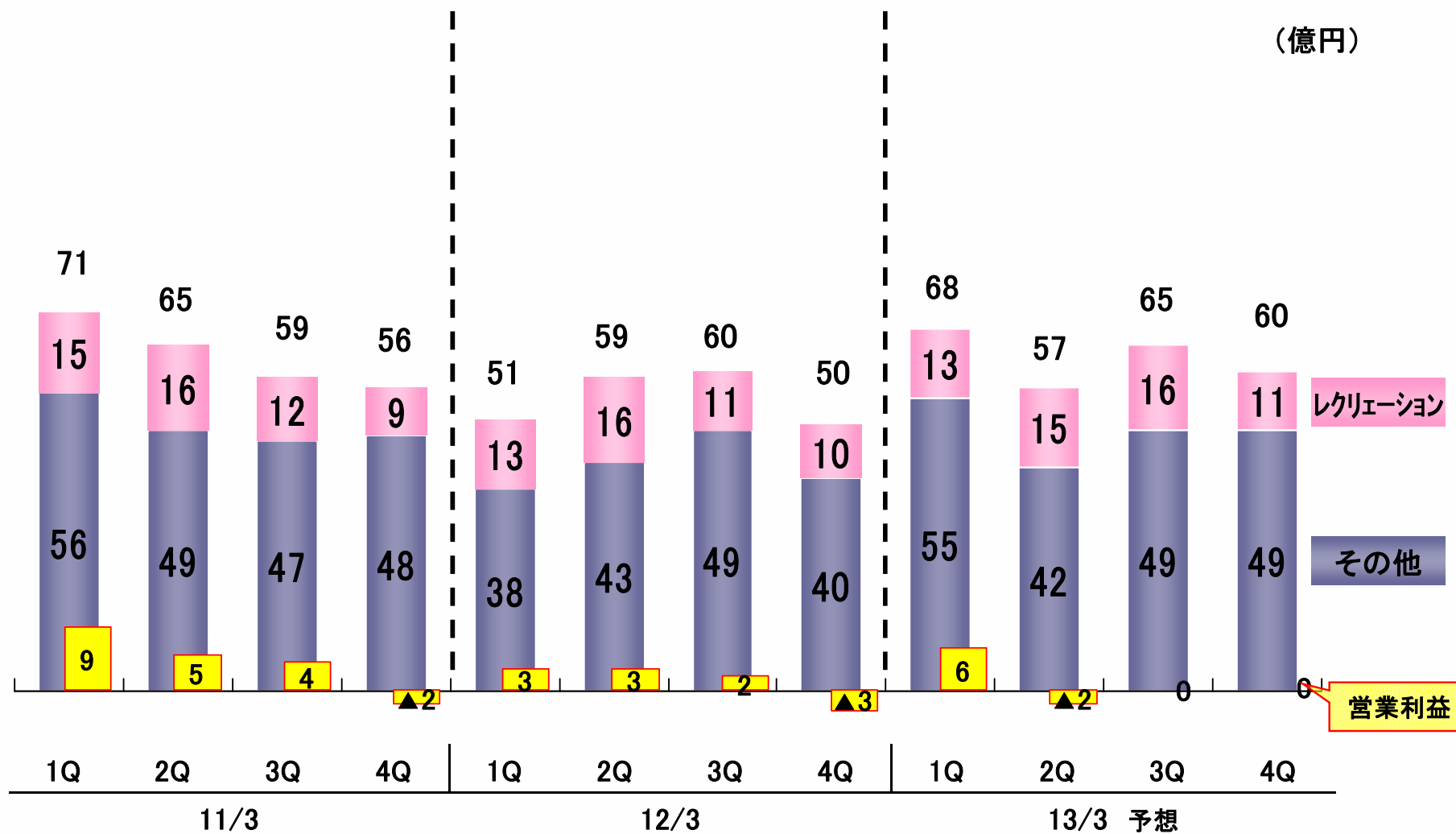
その他四半期別売上高／営業利益



売上高 251億円
営業利益 15億円

売上高 221億円
営業利益 4億円

売上高 250億円
営業利益 5億円



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。